

余土地区タウンミーティング

平成23年7月5日（火曜）

【市長】 皆さんこんばんは、野志でございます。拍手で迎えていただいております。このタウンミーティングでございますけれども、平日の夜間に開催させていただきますので、皆さんお仕事帰りの方もいらっしゃると思いますし、お疲れのところ大変ありがとうございます。このように多数の方にお集まりいただきましてありがとうございます。

余土地区のまちづくり協議会の皆さん、役員の皆さんに受け入れをしていただきまして、ありがとうございます。このタウンミーティングでございますけれども、大きく分けてやっぱり魅力と課題というところに分かれようかと思えます。

まず、魅力というふうに申し上げましたのは、やはり公民館本館という数で言いますと、松山市内には41の地区がございます。例えば、そこがもともと村だったり、色々な特徴、歴史を持っているかと思えます。その41、偶然41なんですけど、41の個性が集まりまして、ひっくり返すと伊予（いよ）になるんですけど、41の地区が集まって伊予を形成しているかと思えます。それぞれにいい特徴、歴史があろうかと思うんですけども、まず魅力を教えていただく、この魅力をしっかりと捕らえないと、まちづくりは間違った方向に行ってしまうと思うんです。やっぱりそれぞれの地区で良さがあると思えますので、その良さをしっかりととらえると、いいまちができるというふうに思っております。ですので、最初にまず、皆さんの地区の魅力について教えていただく。

例えばですね、今回7回目だと司会のほうから申し上げましたけれども、例えば最初にやった五明地区ですと、どんなことが魅力ですかとお伺いしますと、まず人がいいですと。そして、大変風景がいい、自然がいい。そして、五明というと大変自然が豊かなんだけど、街中へ出て行こうと思ったら車でたったの15分で行けるんです。これが魅力ですというふうに教えていただきました。良さがありますね。また北条ですと、やっぱ自然が豊か、海がきれい。ちょっと今活かしきれていないですけど、鹿島が大変魅力的な場所であるというのを教えていただきました。高縄山ですとかそういうところも教えていただきました。そして、3回目が中島でした。中島、海の魅力、そしてトライアスロンを長年地元をあげてやってきたという、皆さん自負があたりで

した。そして、堀江。堀江はですね、とても運動が盛んなまちなんですね。松山市の公民館対抗で運動会があったかと思うんですけど、そこで連続優勝をしているのが堀江だというふうに教えていただきましたし、福祉施設が大変多いところでありまして、そういう優しいまちでもあるということも教えていただきました。あと、桑原ですね、桑原は特に皆さんがおっしゃっていたのが淡路ヶ峠。「淡路ヶ峠」と書いて「あわじがとう」と読むんですけど、桑原中学校の上のほうに、大変景色のいいところがあるんですね。淡路ヶ峠をなんとか皆さんにもっともっと楽しんでもらえる場所にしたいというふうな魅力が出ておりました、そして、前は雄郡でしたけれども、雄郡はとっても街中に近い、暮らしやすい、そして病院が多いんですというような利点を教えていただきました。まず、こちらの余土の利点はなんですか、魅力はなんですかというのを教えていただきたいと思います。

そして、今度は課題点、問題点というお話になろうかと思えますけれども、これについてはですね、職員に言っているのは、しんどいことをあえてしましよう。これはどういうことかという、何にもせん市役所やったらですね、市役所で座っとったらいんですよ。ほんで来る方にお話を持ってきてもらう。でもそうじゃなくて、各地区に我々が出向いていきましょう、そして魅力を教えていただく、そして問題点を教えていただこうと。そこで聞きっぱなしにはしませんよ、ほったらかしにはしませんよ、必ず伺ったご意見を皆さんに返答をする。国と絡むものもありますし、県と絡むものもありますので、そういうのも調べて必ず、そのぶん1ヶ月くらい時間はかかるんですけども、必ずお答えをするというのがタウンミーティングでございます。必ずその一回ぽっきりにほしない、聞き流しにはほしないというのが、この松山市版のタウンミーティングでございます。どうぞ課題、問題点についても教えていただき、前向きな議論ができればと思っております。

さて、市の仕事というのは、本当に幅広いです。松山市立小学校、中学校もでございます、近くに競輪場もあります、クリーンセンターもあります、保健所もあります、幅広い分野にわたりますので、今日は、専門の幹部を連れてきておりますので、幹部からこういう仕事をしております〇〇課の〇〇です、というのを自己紹介させていただきます。

【市民部長】 皆さんこんばんは。このタウンミーティングを統括しております、市民部長の三好です。

【教育委員会事務局企画官】 教育委員会から参りました企画官の渡部と申します。主に施設関係を担当しております。

【企画政策課長】 企画政策課長の大野と申します。松山市全体の総合計画の進捗管理であったり、各部局間の調整を行ったりしております。

【都市政策課長】 都市政策課長の白石でございます。道路など基盤整備を担当している部署でございます。

【下水道整備課長】 下水道整備課長の浅田でございます。皆さんの家庭と処理場とを結んで、一軒でも多くの方に公共下水道を使っていただけるように、面整備のお仕事しております。

【消防局総務課長】 消防局総務課長の岡本です。消防、防災を担当しております。

【市長】 それぞれが担当でございますけど、もし担当でも分からないな、これは他の分野にわたるなといったことがございましたら、経緯を調べて必ず返答することになっておりますので、どうぞよろしく願いいたします。前置きが長くなりましたけれども、皆さんと前向きないい話し合いができればと思いますので、今日はどうぞよろしく願いいたします。

【司会】 それでは、最初のテーマ「余土地区の魅力」についてご発言のある方は挙手をお願いします。

【男性】 まず、余土地区の魅力ということで口火を切らせていただきます。余土地区といえば松山市中心街から電車で7分くらい、車でも同じくらいの時間である、交通の便が大変いいところであります。私鉄、またの・ボール駅、JRの駅、あとバスもたくさん通っておりますので、市内からの交通の便が非常にいい、環境のいいところだと思っております。近くには中央公園もあります、また石手川、重信川という川が流れておりまして、環境にもそういった所が優れていると自慢ができるのではないかと思っております。以上のような魅力があると思っております。

【市長】 ありがとうございます。私から一言だけ入れさせていただきますけども、こないだ雄郡でも思ったんですけども、余土も大変市内中心部が近いですね。私、松山市立清水小学校の入学、卒業、実家は北条なんですけども、北条から街の中心部に通おうと思ったらだいぶ時間かかりますんで、車で市内中心部から7分と聞くと本当うらやましいと思います。あと、街中に近くで静かだというのは本当にプラスだと思わんで、胸を張っていただく余土の魅力だと思います。

【男性】 余土には伝統があるということでちょっとお話させてください。まず一番目に盲天外、森恒太郎さんをご紹介いたします。この方は自らが頭陀袋を首にかけて、村民の福祉のために力を尽くした方です。教育の振興、産業経済の発展、福祉の増進に実績を残した方で、その実績を第5回内国勸業博覧会に提出したところ、一等賞の栄冠を得たのでその賞状がございます。ただいま申しました村是資料が公民館にございます。この盲天外さん、村是の一等賞、調べた資料、この三点が余土村の三種の神器でございます。覚えとってください。

今、絆という言葉が多用されています。余土は市坪、保免、東余戸、西余戸と4つの大字で構成されております。市坪から西余戸の柳井田までの真ん中、この場所が余土の聖地なのです。まさにミーティングのこの会場は、余土の聖地の真ん中にあります。昭和17年に地方文化開発の殿堂として図書館と博物館を併せ持つ総合文化会館として余土村郷土館がありました。その理念が国を動かして公民館設置法となって、全国に公民館ができたのであります。公民館の先駆けであります。ところが、昭和46年、今から40年前にこの小学校の体育館となったのであります。絆を深めるためには、集わなければなりません。余土はもとの住民は2割、8割の人はよその場所からの転入してきた方々です。その融和を図るためには、集うことが肝心なのです。東西に長い市坪から柳井田までの真ん中、住民の知恵としてここに公共の施設がつくられてきました。ところがこの東余戸地区には集会所がないのです。ここにあるべき公民館が余戸中二丁目の中分館に移転してから40年が経過しております。それでこの体育館の道路の北側に中学校の古い講堂があります。唯一、余土村時代の昭和29年に建設された築後57年の建物です。ここに図書館と博物館を併せ持つ、住民の集える施設をつくっていただきたいと思います。先ほどの魅力とこれからの課題として、集える場所をつくっていただきたいというのが問題点です。第6代村長の鶴本房五郎さんが編纂された、村誌をもう一度ご覧になってください。これは余土地区の聖書であります。皆さんこの村誌を読んで、この三種の神器を大切に、それから皆さんが集えるこの聖地に皆さんの、素晴らしい青写真を作って、野志市長さんにも協力をお願いいたしまして、余土地区に素晴らしい未来が開きますような施設をぜひつくっていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【市長】 ありがとうございます。今、大きく分けて森盲天外さんのことと、施設のことを出たかと思えます。施設のことは私が就任してからすぐに、余土にはこういう

状況がありますという説明を受けておりますので、施設のことは今日必ずお話しをさせていただきます。森盲天外さんのことについて、これは松山、いや全国でもなかなかおいでん方だと思いますので、絶対今日は触れたいと思っておりましたので、ちょっと皆さんにお伺いをしたいのですが、森盲天外さんのことについて、まあまあよくよく分かってますよという方、手を挙げていただけますか。

(挙手)

【市長】 ありがとうございます。あ、でも全てとはいかないんですね。実は正直申し上げまして、私が森盲天外さんのことを知ったのが、今から15年くらい前のことです。前の仕事のとときに、余土を紹介するということで余土に来てまして、森盲天外さんという素晴らしい人物がいたんだと知りました。で、しばらく離れておりまして、森盲天外さんて素晴らしい人物だったよな、余土の人やったよなと思って、今回来るにあたって再び調べましたけれども、大変な人物ですよ。ぜひとも皆さん、誇りにしていただきたいので、ちょっとあえて申し上げますけれども、戦前の余土村は先進な自治体だったんですよ。内務大臣から模範村として表彰されているのがこの余土村なんです。で、その森盲天外さんのおかげは大きいんですけども、そういう立派な人はぜひとも知っていただきたいということで、市の教育委員会が「ふるさと松山学」という副読本を出しております、森盲天外さんのことが載っております。「森盲天外 盲目の村長～七か条の村是～」と出ております。こうやって、子どもたちにも知ってもらいたいと思っておりますけれども、ぜひとも皆さん知っていただきたいのが、日本で初めての盲目の村長さん。正岡子規と同じぐらいの年代の方です。子規さんとの関係もあるんですよ。本名は森恒太郎さん。俳句の先生だった子規に作ってもらった号が「天外」ということになりますね。森盲天外さんは、途中から、最初片目失明して最後右目が見えなくなるわけですけども、明治29年に両目とも失明された。そして、もう失望落胆して奥さんとも離婚をするんですよ。余土でひとり暮らしてらっしゃって、自殺を三度にわたって図られるんですよ。ですから大変苦勞をされているというのが分かるかと思います。「一粒米」という本を出してらっしゃって、もう盲目になられてからです、食事の時、一粒の米が箸から膝の上に落ちたんですね。それを指で探して触っていると、わずかに指にある一粒のご飯にも、一粒の飯にも、ほとんど量るべからざる重さのあることを知って、そこで悟ったという方なんですよ。最後に申し上げますけれども、数分前まで植物だった一粒の米が、人間の体に入

って栄養になって、命になるとは驚くべきことである。短時間に米が進化して、人類まで向上することは敬服敬うしかない。一粒の米に合唱して頭を下げるのは、米そのものに対する尊敬ではなく、進化の天則そのものに対する尊敬である、という一粒の米から悟ったというお話が有名でありますけれども、こういう素晴らしい人物が余土の先輩であるのを知っていただきたいというので、改めてご紹介をさせていただきました。それでは、あと魅力がなければ、課題のほうに入っていきますか。

【司会】 つづいてテーマ②「教育環境の充実と青少年育成について」に入りますけれども、皆さんから事前に寄せられたご意見のうち、余土中学校の移転に関することが多数寄せられましたことから、意見交換に入ります前に、まずこの件に関するこれまでの経緯などにつきまして教育委員会から説明をさせていただきます。

【教育委員会事務局企画官】 失礼いたします。教育委員会企画官の渡部です。

余土地区につきましては、余土中学校の移転ならびに余土公民館の移転などについての問題が、以前から懸案事項となっております。本日まで出席の皆さんの中には今までの経緯をご存じない方もいらっしゃると思いますので、話し合いに入る前に、私のほうから今までに至る経緯のご説明を簡単にさせていただいたらいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

まず、中央公園の北側の中学校第3グラウンドについてですが、これは平成5年に地元の皆様のご協力をいただきまして、購入したものでございます。中学校をこのグラウンドに移転し、跡地については、公民館などの地域活動拠点として整備する計画でございました。その後、予期していなかったことですが、平成8年に、用地の一部が松山中央公園整備に伴う進入路として分割されまして、現在に至っております。

次に学校の移転についてですが、用地を購入した当時、中学校は昭和62年に校舎本館および柔剣道場が建設されたばかりであり、国の補助事業であったために、建築されて20年程度経過するまでは校舎の移転は行わないこととしておりました。その後、平成18年になりまして校舎の移転改築が可能となりましたが、この20年近くの間には学校を取り巻く社会情勢は大きく変化し、バブル景気の崩壊による税収の減少や、国の三位一体の改革により補助金等が大幅に削減されるといったことなどによりまして、松山市は非常に苦しい財政状況となっております。さらに、国の耐震改修促進法の制定を受け、平成18年度から学校施設の耐震化に取り組むことといたしまして、北条、中島地区を含めた松山市立小中学校の体育館及び校舎の耐震化、これは総額130億円という大事業ですが、これを始めることといたしました。

そして平成18年9月に、地元の組織でございます「余土地域活性化検討委員会」から、余土中学校の移転に関する具申書が教育委員会に対して提出されました。具申書の概

要といたしましては、大きく3点ございました。

まず、第1点は、移転の全体計画を早急に地元を示すこと。第2点は、移転した跡地の活用について、当検討委員会との協議による余土地区のインフラ整備の向上を最優先させること。第3点は、新たに設置する中学校の教育環境は今後の模範となるように整備すること、というものです。この3点でございます。

これに対しまして、当時の教育委員会事務局長が検討委員会に出席いたしまして、中間報告という形で答えております。その概要は次の3点でございます。

まず第1点は、第3グラウンド用地の一部が道路用地となりましたけれども、残地の28,202平方メートルへの学校の移転は十分に可能である。それから第2点といたしまして、移転に伴う経費は校舎、体育館、プールなど約31億円かかる。このほかに地域インフラ整備などを加えると非常に膨大な経費となるということで、松山市の財政状況を踏まえますと、現在のところ移転の具体的な計画が非常に立てにくいという状況にあるということ。これが第2点です。それから第3点といたしまして、第2点のような理由もありますけれども、引き続き検討委員会と協議をさせていただきたいということが第3点でございます。

その後、現在に至るまでの間につきまして申し上げますと、松山市の財政といたしましては依然として厳しいものがございます。また、学校施設の耐震化につきましては、まだ全体の3割程度しか進捗しておりません。今後10年程度は工事が継続することから、中学校の移転は依然として非常に難しい状況となっております。

最後に公民館の移転について、地元の組織である「余土地域活性化検討委員会」は、現在「余土地区まちづくり協議会」に引き継がれておりますけれども、今まで述べさせていただきましたように、学校の移転についての計画が非常に立てにくい状況では、公民館などの建設計画も具体的に話ができませんので、協議が停滞し現在に至っているという状況でございます。

以上で説明を終わらせていただきます。

【市長】 歴史からすると第3グラウンドの購入が平成5年ということで、18年前ですか、もうだいぶ時間がかかっているお話になってるんですけども、また公民館の移転と余土中学の移転の話も絡んでくる話かと思えますけども、このあたりは皆さんどうでしょうね、移転か存続かで当初と違った意見が地元から出始めたというのも一つあるところだそうですね、このあたりは皆さんどのように思っていますか。こうしたいんだと、せっかくこの余土にはまちづくり協議会といういい組織がありますので、その中で、こうしていきたいという思いを、地区でまとめてお話をさせていただいたらと思うんですけども、どうでしょう。せっかくの場ですから、こうしたいんだみたいな意見がある方いらっしゃったら。

【男性】 余土中学校の移転の問題について、平成18年の9月5日に教育委員会に対して要望事項を出しました、あの時点では、移転が中心になって検討されたわけですが、今は事情が随分と変わってきており、18年に出しました要望事項と変わっておると思います。私は、学校問題と申しますか、教育問題はその地域のインフラだと考えておるわけです。なぜかといいますと、最近の社会情勢の中で学校の統合あるいは廃校が各地で起こっております。学校がなくなっていくと、その地域の人口は急激に減少して、寂れてしまっておるのが現状です。教育すなわち学校ぐらい地域に大切なものはない、基盤はないと私は考えております。そして最近、不動産屋が、それぞれの不動産をパンフレットで広報していく中に、〇〇小学校の校区であると、学校を中心に考えたパンフレットを出しておる。皆さんご存知だろうと思います。そのぐらい、学校というのは地域にとって大切な基盤なんです。余土中学校の問題について申し上げていきたいと思うわけですが、一つは18年に出しました要望事項について文書で出しましたが、返答は文書ではいただいております。いついただけるんだろうかと思っておりましたけれども、いっこうに文章は返っておりません。やはり文書としてお返事いただきたいというのが私の気持ちでございます。文書で聞かれたものには文書で応えるというのが正しいのではないのでしょうか。お願いをしておきます。18年から今回が変わってきた点につきましては、一つの私の案としてですね、向こうの保免町の新しく買い上げました校地につきましては、いろいろ事情がずっと平成8年から変わってきました。中央運動公園のためのアクセス道路にかがれ狭くなっております。現在の中学校の位置は、余土地域の中心的位置になっておるわけでございます。位置的な面から考えますと、移転するよりは現在地の方が最適であるという判断しております。しかし、今の場所でどれだけ拡大、整備できるかが大きな問題です。現在の余土中学校には、東西の市道、南北の市道、2本校地の中に通っておりまして、市道を渡って運動場に行き、体育館、武道場に行かなければならない現状です。今日も校長と話しましたがけれども、毎日毎日心配の種だと。もう一つは、第3グラウンドに行くことの心配、これも大変だと話されておりました。そういった危険を伴う学校の状況につきまして、もう少し意を注いでいただきたいというのが私の願いでございます。先生方は毎日毎日そういう心配のもとに子どもたちを育成しています。中学校のインフラで申しますならば、ハード面が整っておりませんが、ソフト面は一生懸命やって、成果を挙げておるわけですから、先生の苦労は大変ですので、その点十分くみ取っていただきたいと思っております。

【市長】 長い歴史のある話ですけれども、本当に地元の方々と協議を重ねて、私もこれまでに仕事で県下全域取材に行かせていただいて、学校がなくなって地域自体が大変寂しくなったという例をよく見てまいりました。余土のこの人口でしたらそうい

うことにはならないと思っているんですけども、これからも協議を重ねて、いい形で皆さんに笑顔になっていただけるようまとめる作業になりますので、やっぱりどこかは皆さん譲り合っていて、いい形でまとめていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

【男性】 余土地区が一番の問題点、先ほどの中学校の整備問題、これが片付かない限りは、それ以外のハード面について進展が難しい。当時一生懸命苦労された方々は、あの土地を購入するために苦労された。その土地を断りもなく取り付け道路にとられた。松山市一大きなグラウンドができる予定の余土中学校が、そこらへんの中学校と同じになってしまう。こういう強い思いの中でこういう会をしても、市と意見が合わない。そういう長い経緯をずっと踏んできております。私も小学校のPTA会長とかいろいろやりながら、そういう問題に常に関わってきております。野志市長のこの1年、遅くとも2年の間にですね、余土地区にとってより良い方法、総合的な施策の中で中学校の問題、公民館の問題を含め、様々な総合的なハード面の問題について、断続的な協議をさせていただいて、皆さんが概ね、それならようやったなと言うようなものにつくりあげたいと思っておりますので、ぜひとも市長の全面的なご協力、それとそれぎりじゃなしに、保育園も余土の場合かなり老朽化しております。これからの日本を背負っていく中学生、またそれより下の保育園の子どもたちが一番損をしている。そういう子どもたちが早く幸せになれる地域にしていきたいと思っておりますので、全面的な協力をお約束していただければ、私ども協議会としても安心して協議に望めると思っております。

【市長】 これまで平成5年からですから20年近くかかっております。それだけ経緯があったと思いますので、スピードアップというのは、その経緯を解いていかないといけないので難しいことかとは思いますが、できるだけスピードアップできるようにしていきたいと思っております。

【司会】 二つ目のテーマはちょうどこの「教育環境の環境の充実と青少年育成について」ですが、中学校以外のことでもこのテーマに関する事で何かご発言ございませんでしょうか。

【市長】 様子からすると、かなり中学校のことに帰結するような感じで。まだまだ時間もありますのでどうぞ。

【男性】 先ほど言いましたように交通の便が非常にいいということで、市とか教育委員会とかの会議をする場合、公共の交通機関でこの余土の地区に来れるということで、できることでしたら市の大きな施設、複合施設でもいいんですが、教育センター的な、余土は教育のまち、昔から教育が熱心なまちでございますので、伊予鉄道の余戸駅、JRのの・ボール駅もありますので、そこらあたり利用していただくことが十分

可能であると思います。そういうふうな市の重要な施設を、一つ建設をしていただいて、また余土地区の住民が様々な会議等々に利用ができると思います。今、松山市の教育センターはどっかの学校を間借りしている状態じゃないかと思っているんですが、十分に活動ができると思います。中央公園もありますので、先生の研修等々もそういう施設を使ってできると思います。複合的なまちづくり、このへんの南西的なコミュニティセンターの一つの中心地として、余土をぜひ活用していただけたらと思っています。

【市長】 昨年度策定した「松山市総合交通戦略」があるんですけど、その中で立花、久米の駅、そして余戸の駅っていうのは拠点になっております。特に余戸駅は一日あたりの乗降客数がおよそ2,200人で、郡中線の中で一番利用者が多いんだそうで余戸の駅を拠点と捕らえておりますけども、駅は伊予鉄道さんのものになりますので、伊予鉄道さんや関係機関と駅前の広場の整備について検討していきたいと思っています。私、この立場にならしていただいて7ヶ月で感じることでですけども、いろいろハードを作ることもさせていただきたいとは思っています。でも毎回こう辛い現状というか、タウンミーティングで話をせないかんのが財政の問題なんです。松山市の財政の中で一番大きいウエイトを占めるのは民生費、福祉にかかるお金なんです。これが全体のおよそ4割を占めております。この民生費が昨年度から今年度で50億増えました。その中で生活保護費がおよそ20億増えました。大変な額ですよ。昔の高度経済成長の時代だったら、いろんな事ができたと思うんですけども、もう今の時代、なかなか入ってくるほうは増えない。ですので、自分の生まれ育った松山の財政を悪いほうに傾けるわけにいかないの、ハードをつくる場合には、つくる時の建設費がいる、そして維持費がいるということです。ハードをつくる場合にはそうとう考えてやらんといかんと考えております。ですので、なかなかハードをつくるのは遅いなと皆さん思われるかもしれませんが、そういうような事情があるところです。でもそのへんは皆さんのご要望も聞きながら、やっていきたいと思っています。

【女性】 財政が厳しい中で水問題の500億というのはどっから出たんでしょうかね。それをどうにかしたほうが、そっちのほうへまわるんじゃないでしょうか。

【市長】 水問題については、これまで市役所として19の方策を考えてやってまいりました。考えに考えてやっております。私も一市民の中から出てきたわけですから、ちょっとでも皆さんの負担が大きくならないようにしたいと思っています。そういった中、海水の淡水化とか、いろいろ他の方策も考えたんですけども、一番値段のアップが少ないのが今の、西条にある黒瀬ダムからの未利用水、まだ使っていないお水を分けていただくことができませんでしょうかというのが一番コストの面でも負担が少ないと思っています。今年は、ちょっと石手川ダム危ないなあ、と正直思っていた

んですけれども、幸いなことに雨が降ってくれました。しかし、皆さん油断をしてはいけません。あの平成6年の大渇水ですが、6月の貯水率は90何パーセントだったかと記憶しております。昨日も大変な雨が降って、今100パーセントなんですけれども、平成6年あの大渇水のときは6月で90パーセントほどあったんです。それが梅雨に雨が降らなかったもんですから、減っていった最後にはデッドウォーターも使ってしまった状況でした。ですから、安心はしてはいけません。とにかく50万人を超える規模のまちでありながら、ダムがあまりにも小さすぎる。37万人の設定で作られているダムですから、今52万人の人口ですからおよそ15万人足りないわけです。あまりにもダムがちっちゃい。そしてもう一つ、地下水を利用しておりますけれども、一昨年森松のほうで地下水が枯渇してしまった。地下水は土に埋まっておりますので、上から見て何パーセントって貯水率見えない、自然のものです。ですから、この地下水に頼るのも恐ろしいことです。松山市は石手川ダムとこの地下水の二つしかないのです、もしどちらかに何かあったら、たちまち大変なことになってしまう。子どもたちはプールできない、まだ子どもの遊びに関する事ですからいいかもしれませんけれども、医療の現場では大変きれいな水を必要とします。本当に命の問題になっていく、ですので松山市としては、第三の水源を19の方策を考えた中で一番皆さんの負担が少ないものが、西条からのダムの未利用水の一部利用でございます。これはきちんと考えてやってまいりましたので、私これまでの松山市役所のやってきたことにおかしいところは一切無いと、水問題に関しては思っておりますので、この方策を進めさせていただこうと思っております、

【男性】 先ほど市長さんのほうで、「ふるさと松山学」このものを教育に使う、大変素晴らしいものをつくっていただいて学校で使用していただいていること、大変ありがたく思っております。ふるさとを愛する、そこに住んでいる人が自分の住んでいるところが好きだ、ということは地域のいろんなことを知らないかぎり、なかなか地域を愛することにはならないと思います。中村時雄市長時代に、全公民館だったと思いますが、「ふるさと余土」「ふるさと石井」という、1時間物のVHSのテープができておりました。これを見ますと、余土の様子が非常に良く分かるわけです。今手引松など枯れてありませんけど。まちづくり協議会でもいろいろ教育文化にやっておりますけれども、財政的に難しいところがありますので、市のほうで、それぞれの地域の魅力、歩いて地域の人も探さないといけないと思いますが、ぜひDVD化して、各公民館に10巻なら10巻、作っていただければ高齢クラブとか、町内会でそこに住んでいる外部から来た人たちに、余土はこういう地域だと知ってもらえることができるんじゃないかと。知ることで自分が今住んでいるところはこんな魅力があるんだと、口でいくら言ってもなかなか理解してもらえませんが、映像等、ぜひですねそんなに金額かからない

と思いますのでお願いを申し上げたらと思います。

【市長】 それぞれの地域の魅力をDVD化ということですけども。

【市民部長】 今、地域における住民主体のまちづくりを松山市が進めておりますけども、そこで住民が一番まとまりやすい活動というのを紹介させていただきますと、地域の魅力を共有するという点で、今DVDと言われたんですけど、まち歩きをやっているんです。余土地区もいろんな地区に出向いて懇談会なんかやりましたけど、まずまち歩きをやると、中島だったら中島7つ離島があるんですけど全部地域に行くと、居ながらにしてその場でDVDを見るというのも確かに一つの切り口であるんですけども、実際その目でその足で歩いてその素晴らしさ、もちろん音も聞こえるし、風景も見れるし、そういうことを見るのが一番大切であると思いますので、まずそのあたりをやってから、その心に残る風景はどこであったかということを見た上で記録にするかどうか、それからやっていったほうがいいかなと思いますので、ただご提言は今後施策に活かしていきたいと思います、ありがとうございました。

【男性】 私たちは安全に重点を置きまして、既存の組織と連携をとりながら活動を進めてまいりました。その過程におきまして、3月11日の大震災以降、三連動の地震があった場合に余土地区は一体どうなるのだろうということが非常に大きな問題となって、議論となっております。私たちは自分たちでできることは自分たちでやろう、しかし自分たちでできないことはやはり行政と連携していこうということで、まず最初に松山市が震災に遭うとどういうふうな状況になるのかという情報を専門的な視点から公開していただきたい、そういうことを基にして、住民大会、説明会をやっていこうというふうに話し合っております。その件につきまして、ぜひ情報の公開と専門家の派遣、これをお願いしたいと思っております。それから、そういうことをですねベースにして一人一人が意識をして、そして自分たちで何ができるのかということを話し合いながら、そして余土にはいろんな既存の有意義な社会資源、組織があります。そういうとこと連携をとっていこうと思います。しがしながら我々自治では非常に難しいところもありますので、そういうところはぜひとも行政と連携をとりながら進めていきますので、ご協力をお願いしたいなと思っております。

【市長】 今日は消防のほうから来ておりますので、消防の方からお応えをしようかと思いますが、ちょっと私のほうから言わせてください。昨日ですね、広島出張でありまして、というのが「坂の上の雲」が終わった後、地域経済元気にしたいと私思い強いですから、例えば企業誘致とか観光で元気になっていただく、「坂の上の雲」が終わった後は「瀬戸内松山構想」っていうのを掲げているんですよ。広島県の県知事さんは「瀬戸内海の道構想」だったですかね、瀬戸内を大事にしましょう、広島県は山もありますよね、だけど海の道構想っていうのを挙げてくれているんです。松山は「坂

の上の雲」が終わると来年NHKの大河ドラマ「平清盛」なんですね。広島宮島の宮島が舞台になる、瀬戸内海国立公園というのはいちばん最初の国立公園なんですけども、あと3年すると瀬戸内海国立公園80周年になるんです。どんどん瀬戸内に注目が集まっていく中で「瀬戸内松山構想」というの掲げているので、広島県の広島県知事さんと呉の市長さんにお会いしてきたんですけども、また船舶会社さんにいろいろとお願い事をしてきたんですけども、9時半に観光港に着いたら大変な雨でした。ちょっと心配になりましたので、消防に行きましたら警戒本部が設置されて、大変な人数が詰めておりました。消防職員と下水の関係とか道路の関係も絡みますので、一般の職員も消防に詰めておりました。どんな体制ですかと聞いたら、今日の働いてる人をのけて全部出ているような状況で、夜中の11時半まで消防におったんですけども、本当に消防の職員一生懸命やっておりました。皆さんからどんどん電話が入ってくる指令の場所におったんですけども、本当に深夜ですけどももちろん動きよくやっておりました。本当に皆さんの安全安心を守るために職員たち一生懸命やっておりますので、ご理解をいただけたらと思います。では、消防のほうから。

【消防局総務課長】 はい、東北の地震の規模が来た場合に、というご質問でよろしいでしょうか。今現在ですね、地震の想定は南海、安政の地震M8.4の防災アセスメントを県が作成しております。全壊する建物が何棟あるか、そして亡くなる方が何人いるかとか、火災が何軒起きるか、といった数字に基づきまして「地域防災計画」を松山市で作成しております。そういった中で避難所の設定とかですね、備蓄物資の確保であるとかそういった対応を市域全体として今取り組みを進めているわけですが、今後国が見直しております三連動も含めた防災計画を国の指針として今後出していこうかと思っております。その中でまた県全体の防災計画の中の松山市、そういった流れの中で、今後適正にその防災計画を松山市の防災計画に対しても見直していく動きが出てくると思います。そういった取り組みも既に消防防災といたしましても、見直しを図っているところでございます。現状でございますけど、先般全戸配布いたしました防災マップを見ていただきまして、避難場所とか備蓄物資であるとか、余土地域がどういった被害があるかとかいうところはですね、一番適正にあらわされておりますので、ぜひ防災マップを参考にいただきまして、地震の対応する意識とか地域住民皆さんが対応する姿勢であるとか、そういったところを現在の段階では進んで取り組んでいただけたらと思います。

【市長】 全戸にお配りした防災マップで、冒頭にあったと記憶しているんですが、松山市民で今後何らかの災害に遭うだろうと思っている人の割合は75パーセント。そして、そのために何か準備してますかって聞いたら、80パーセントの人が準備してないって答えてるんです。ちょっとびっくりしたんですけども、案外準備されてないん

だなんて思いますのでぜひともこの機会に備えをしていただきたらと思います。私3月11日の東日本大震災のときにちょうど東京出張で、東京で震度5の揺れを感じました。結局私羽田空港で地べたで寝ることになったんですけども、命があっただけでありがたいと思ってます。地べたでコートで寝ましたので、ダンボールが一つあるだけでも楽やなとか、毛布は一枚よりも二枚あったほうが敷布団掛け布団になってありがたいとか感じましたので、この東日本大震災については、松山で感じる人とはまた違う感じを持っています。先日も6月の5日6日と宮城県の南三陸町、そして風評被害のひどい福島県の会津若松市に行ってきました。今回の広報でも見ていただいたかと思うんですけど、ともに繋がりのあるところですよ。私も実際現地に行って、見てきたこともあります。できる限り松山市政の中で安全安心に繋げていきたいという思いがあります。皆さんからよく言われるのは、もっともっと早く変えたほうがいいんじゃないの、早くなんか変えたほうがいいんじゃないのって言われるんですけども、これもし、松山市が何か変更する。続いて県が何か変更する。国でまた変更するっていうたら、市が変えて県が変えて国が変えてって最悪三つも改まることになるんですよ。そうなるって混乱してしまいます。ですので、やはりタイミングを見なければならぬと思っております。昨日も消防の職員の仕事の様子見てて思ったんです。命がけで職員働いておりますので、一般職員も消防の庁舎詰めておりましたので、まちの安全安心ということは本当に大事に考えておりますので、しっかりと活かしていきたいと思っております。

【男性】 先ほどから皆さんのご意見を聞いてまして、余土地区というくくりでやられますと、余土の駅を中心にしたところがメインになっていくわけです。そうすると私どもが住んでいる保免町、あるいは市坪というのは端っこになってしまうわけです。私もまちづくり協議会の中に入ってたくさんの意見を集約しておりますが、まちづくり協議会だけでは手に負えないほどの要望が出ております。これをどう処理していったらいいのかというのが一つの問題です。それぞれの分科会に分かれてテーマごとにやっていますが、それとて消化できる案件だけではない数だけあるわけです。松山市の側から見れば、まとめてもらえるだろうという安心感があるんでしょうが、地域の住人にとったら、それはどうなつとんですかというのがまず第一点ですね。集会すると前まちづくり協議会にゆうたのにいっこうに進展が無い、どうなつとんですか。実際私どもも中で協議してありますが、遅々として進まないんです。その点の一つはどうやっていったらいいのかというまちづくり協議会の中での改善の仕方、あるいは市のアドバイスをもらいたいことと、それから私の地区では、現在市坪土居田間の複線化工事が松山駅の新設に伴って準備を進められております。突拍子も無いような話を持ち出しているんですが、地域の住民にとったら、保免町は何にも公共機関がない。先ほど

余戸の人は余戸の駅前を中心に物事を考えればバスも電車もありますと言いますが保免町は伊予鉄道のバスと宇和島バスが斜めに横切っているだけなんです。もう一つ、郵便局もない銀行もない、銀行は最近媛銀が移転してきましたが伊予銀さんは小栗まで行かないとない、余戸まで行かないとない。そのような地域の温度差があるわけです。その辺を市の行政としてはやっぱりいろんなところで目配りをしてもらいたい。今言いました駅の新設もですね、保免町の中でも実際には、私が住んでいるところは中いうところですが、一番線路際です。保免町の西のほうに行きますと余戸のほうに少し寄りますから、そこまで行ってJRの駅できたってそなにええことなかるがな言いますが、保免町に駅ができますとどんな利点がありますかと言いますと、松山市に出るのが市坪から200円ですが保免町から乗れば160円ですね。40円の運賃が安くなる。それから今保免町の人は東京出張あるいは大阪出張いうたら、家族に送ってもらって駅へ行くとか、自分が運転して行って車を預けて行くわけですが、タクシーで駅まで出ますと1000円ですね。なぜ駅を作ってほしいのか言うと、私どもも年とってるわけなんです。今は自分が運転できますが、いずれ自分でよう動かないときに公共のインフラ整備がされておれば、先ほど言いましたようにバスで市駅へ出て駅へ行くと、160円では行かないんですね。今現在私どももあそこへ駅を作れと言われても市も県もJRもお金ありません、知ってます。ですから長いスパンでそういう環境整備を考えてもらいたいと思うし、高齢化がなおさら進んでいく今日ですから、そんなことも考えてもらいたい。それから先ほど中学校の移転の話が出てましたが、若干住民にも温度差が出てると思うんです。聞くところによると、あれをしようとした頃には皆さんがこぞってあそこへ行きたいというご意見が多かったように聞いております。最近では保免町行ったら遠いがなど、危ないがな、いう声を離れたところからは聞きます。そういう人たちが本当にやっぱ移りたいのか、もうあそこでええがなと変わっていきよんかですね、そこらあたりも住民として考えていかんといかんのじゃないかと思っておりますので、よろしくお願ひします。

【市長】 ありがとうございます。ご質問として大きく二点あったかと思ひますけども、まちづくり協議会のことについて。

【市民部長】 私のほうから、まちづくり協議会が手に負えん、住民には手におえんがどうしたらいいかということなんですけども、まちづくり協議会を作って、そこでみんなが話し合おうかということは、今までいろいろ住民が困った問題があったときに、解決方法として、力が強い人とか声大きい人に言ってもらおう、そこで力を發揮していただいて実現しようというのがあったんですけど、今そういう手法は通りません。何でかということ公正公平にやらんといかんということです。次の方法はどうかということ、たぶん今やってもらっているのは余土はまちづくり協議会で地域計画、

まちづくり計画というのを作ってもらってると思うんです。我々が条例等でお約束しているのは、住民が責任を持って合意形成をしてまちづくり協議会でまちづくり計画を作ったときに、そのまちづくり計画はそれぞれの部署が対応するのではなくて、全庁的にその問題に対して協議しましょうということをお約束しているわけです。ですから今はみんなで合意形成とかたぶん大変だと思うんです。もう全体的にはこういうやと決めていただいたときに、行政がその皆さんが作ったまちづくり計画にどういうふうに参加していくか、それはお約束しておりますので、それが遅々として進まないのか、あるいは見方としては遅々として進んでいると見るのか、そういう形で物事は簡単に難しい問題大きな問題は簡単に解決しませんけども、しかし解決しようという動きは必ずそれは市長の下進んでいきますので、よろしく願いいたします。

【市長】 JRのことについては、はい。

【都市政策課長】 都市整備部でございます。先ほどの保免地区に新駅を設置という要望でございますが、新駅を設置する場合には、設置費用につきまして地方自治体が負担する請願駅があります。一般的に請願駅の設置につきましては、JRにおきまして周辺の環境なり費用、また需用等検討し決定するもので、保免地区につきましては市坪駅から1キロ程度しか離れておらないとか、また信号回路の新設に多額に費用を必要とすることから、JRにおいても設置については困難であるという考え方が示されております。松山市としましても、新駅設置というのは非常に難しいと考えております。

【男性】 新駅の設置の費用で言いますと、「小村神社前」いう駅が新設されましたね。これは単線のところにホームを作るだけで、ホーム設置費用が1億2千万だけです。それは従来から国、県、市、JRが等分の負担をするわけですから、仮にその程度のものを作るにしても1億2千万かかっているわけですね。そうすると、その費用は仮に4分の1ずつとしてみても約3千万になりますから、我々素人から考えると単年度に出そうとするから物事が進まないと思うんで、例えば積み立て方式をとって、事業を何年か先に実現をしていくというような、行政もそういうお金の捻出の仕方を少し工夫をしていかないと、今年もありません来年もありません毎年ありません、だけど市役所は冷暖房が効いているというのは住民感情としては成り立たないと思いますから、少し知恵をしぼっていただきたいと思います。

【市長】 はい、今積み立てのことを出していただいたんですが、積み立てしております。松山市としてはおつきい事業に対してはですね、ちゃんと積み立てでやっております。そして冷房のこともありましたけれども、私が就任いたしましてさらにケチケチ作戦に拍車がかかりまして、コピーは両面じゃないとだめとかですね、できるだけエレベーターは使わないようにしましょうとか、一基今動かさないようにしております。民間から出ましたのでコスト感覚は持っておりますので、できるだけ無駄遣い

のないようにしております。市役所の中もちょっと結構暑いんじゃないかなと思いますけども、冷房28度になっており、かなり節約しておりますので、その点ご理解ください。

【男性】 市坪町は平成18年の5月に市坪まちづくり協議会というのを立ち上げました。それから遅れて3年、平成21年に余土地区のまちづくり協議会が発足しました。この二つの協議会が設立されたときに、市坪町民からアンケートをとりました。特に要望の強い意見が二つありますので、それについて説明させていただきます。一つは今日のテーマに出ておりますが、JR市坪駅周辺の整備。中央公園ができてから西側の方は徐々に良くなっておりますが、東側はずっと取り残されたままです。本来は中央公園ができたときに、JR市坪駅周辺整備と、街区公園を作ってもらおうようになっていたんですが、ちょっと問題がありまして現在そのままになっております。特に市坪は公園が一つもありません。と言いますと、中央公園という大きい公園があろうかということと言われるんですけども、使用目的、使用する対象が違いますから、ぜひ街区公園を作っていただきたいと思います。今、市坪まちづくり協議会でも検討しております。徐々に具体化しておりますので、ある程度まとまりましたらまた松山市の関係部署にお願いにあがりたいと思います。

【市長】 時間が迫っておりますので最初のことについてお話をさせていただきます。今、徐々にまとまってきよりますのでという大変ありがたい言葉をいただいたんですけども、市坪の東側、これまで地元の皆さんと道路整備や公園の整備のことについて、いろいろ協議を重ねてきたと聞いております。整備に必要な用地の確保について地権者の方のご理解が得られなかったようで、今のところ具体的な事業に至っていないんだそうですね。今まとまりつつあるということですので、地元の皆さんの合意形成が図られたら、再び検討を進めることは可能だと考えておりますので、お願いいたします。

【男性】 町も頑張りますので、聞くところによると公園の建設というのは申請の順と聞いておるんですけども、そうでなくて必要度に応じて優先的にやってほしいというのが私たちの願いです。以上よろしく申し上げます。

【市長】 分かりました。この公園のことについては。

【都市政策課長】 公園の整備、また公園でも街区公園という一番市民の皆さんの身近な公園なんですけど、いろいろ条件がございます。例えば、既設公園との位置関係とか、規模、面積とか、そういう関係がクリアできれば、現場に出かけさせていただいて、可能かどうか検討させていただきたいと思います。

【市長】 他、どうでしょうか。

【男性】 私の話題はちょっと小さいんですが、下水道工事に関係したお願いになり

ます。すぐこの近くに竹の宮上南という町内があります。約10年位前、下水道工事があり、約30パーセントくらいがそのときにできまして、残りの70パーセントくらいがそのままになっております。いろいろ周囲から聞きますと、この町内のど真ん中ですね松山市道で余土122号線というのが走っております。その122号線の下に市の工業用水とか水道とか、網蓋したU字型の暗渠とかいろいろふくそうして、その関係でも下水道をするのに、技術的にはいけるんだろと思うんですが、費用がかなりたくさんいるみたいなんです。その区間が200メートルほどあります。こういうところがですね、私ども町内だけじゃなくて他の地区にも余戸にもあるんじゃないかと思うんですが、技術的にできないのかあるいは計画しないのか、そのへんははっきりしておかないと、その200メートルの区間に約80軒ほどの対象となる家があります。集合住宅も入れてですが、80戸ほどあります。これらは今みな浄化槽で対応しており、浄化槽が古くなったら交換もしないといけないので、下水道の工事が何年か先にはっきりしておれば、それまで設備を換えなくても待てるということですので、ぜひとも、文書でいただかないと、我々も町内の総会とか役員会で聞かれたときに話ができませんので、できるだけ文書でお返事をいただきたいと思います。

【市長】 今まさにタウンミーティングらしいとこなんですけども、それは技術的に難しいんか何でできてないんやろうかということに対して、こうやってこういう経緯なんですよってお話できるのがタウンミーティングの良さだと思うんです。話せば理解、話さなければ誤解とよく申し上げるんですけども、下水道ありますのでお答えをさせていただきます。

【下水道整備課長】 下水道も右肩上がりの経済のときに、メーターあたりいくらかというのはあんまりなしで、処理場に近いところから順番に下水を入れていったわけなんですけども、やはり企業会計に変えまして、家が10軒あって1,000万かかるものと100軒あって1,000万かかるものとは、かけるお金と効果というのが違う、そのへんを優先して59パーセントくらいの普及率なんですけども、100パーセントにまだ40、市内のいたるところまだ公共下水が来てないところ多いわけですけど、その優先順位というのを費用対効果を中心につけて、それらを21年、5ヵ年ごとに色分けしまして、赤青白という形で21年から25年までに整備する地区、26年から30年までに整備する地区、31年以降に整備する地区ということで、現在下水道整備課のホームページに色分けをして載せております。ご指摘の地区に関しましては、31年以降の整備となっております。と言いますのも80軒ということだったんですけど、公道、松山市道に面しているところというのは200メートルの間だけで、あと8本ほど南北に道があるんですけども、全て私道、個人の道になっております。松山市にも私道整備もありますので、住民の代表の方を選んでいただきまして、10人おったら8人以上は下水を繋ぎますよ、前向きです

よこの地区はということであれば、優先順位もポイントも上がっていくと思いますので、下水道整備課へ相談に来ていただいたり、こちらからもご説明にお伺いいたしますので、よろしく願いしたらと思います。

【市長】 この機会ですので、せっかくですので何かありましたら。

【男性】 まちづくり協議会がまだ始まったばかりでこれから皆さんにご意見を伺いながらまちづくり計画を立てて、一步一步進めていきたい、横の繋がりを強固にしていきたいのでご協力お願いします。その一環としてスポーツとか健康とか地域で盛んにやられとるんですが、余土地区にある中央公園を例えば一日余土の日、半日でもいいです、公民館の体協さん、あといろいろ体協さん、まちづくり、様々な団体、あとスポーツ団体さんが一緒になってその日貸し券が市のほうから配布できんかな、これ今年来年の話じゃないかもしれませんが、せっかくある施設なんですけどなかなか余土地区で使いにくい、お金もいる、利用料もいることなので、その日は余土地区の住民であれば何のスポーツに取り組んでもいい。そのお世話はみんなでやっていくつもりではあるんですが、そういう利用ができるようなところとか、坂の上の雲が終わった後、観光あります。先ほども出ましたが余土地区先人、立派な方もいっぱいおられたり俳人、歌人の方立派な方、名前の通った方もおられます。垣生地区までの村上さんも含め、あの道を新たな俳句の道とかそういう観光、南西地区の観光、ループバス、伊予鉄道さんがループバスも作っておられますので、そういうバスを利用しながら観光、徘徊、地域巡りができるような観光的な活動もできるんじゃないかなと思っておりますので、またそういうようなご検討もお願いいたします。

【市長】 はい、分かりました。お答えをさせていただきますけども、ちょっとごめんなさい。私知らなかったんですけど、なんで7月5日が余土の日なんですか。なんか「ヨド」って語呂合わせでもないですよ、7月5日。ちょっとどうしてなのかなと思ったものですから。実は、中央公園は本当に人気が高くて、私の方に市民の皆さんからもうちちょっと使いたいんですけど、なかなか使えんよね、利用したいとかぶっつてということなので、余土地区の皆さん、地元ではあるんですけどなかなか皆さん集中して利用したいという意見が強いので、難しいかなと思っております。

時間がきてますので私の結びの話にさせていただきますんですけども、今回こうやって余土の皆さんとお会いさせていただいて、特に中学校の話を中心に、皆様がどのようなご要望を持っているのかということをお聞かせいただきました。今回なかなか恥ずかしくて手が挙げられなかったなという方もいらっしゃると思いますので、松山市には「わくわくメール」という制度がございまして、皆さんの要望などをパソコンで寄せてもらおうというもの、またはがきなんかでも皆さんから募っておりますので、どうぞ、どんどん松山市に声をゆってもらえたらと思っております。門戸は常に開い

ておりますのでこれからも意見を言っていただいて、その要望を基にできる限りやっ
ていきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。長時間、1
時間半でありましたけどもご協力ありがとうございました。

(拍手)

——了——